



出前しいな ～ ケース1 ～

区民の皆様の代表者として区民の意見を政治に反映させる責務があるため、直接お話を伺う活動になります。



80代で寝たきりのお父様をご自宅で介護されている息子様（50代）にお話を伺いました。息子さまが介護離職されたのは、今から5年ほど前、不安定な歩行状態で度々外出されるお父様の目が離せなくなった頃だったそうです。息子様いわく「どこかが良くなると別のどこかが悪くなる」老いを重ねるお父様と向き合いながら、最初は“他人にゆだねたくない”他人が家に入る事に抵抗があった”としばらく悩んでいたそうです。主治医の勧めをきっかけに、介護保険の利用をスタート。

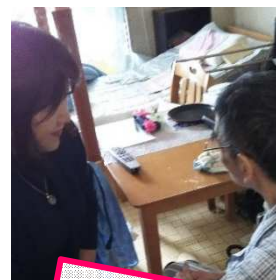
現在は寝たきりとなったお父様の介護を、息子様が中心となりケアマネジャー、往診医、訪問ヘルパー、訪問入浴と配食等の複数のサービス利用しながら在宅介護を続けていらっしゃいます。色々な専門職が関わる事で介護を一人で担っていた息子様の理解者も増え、話を聴いてもらう事で孤独感も無いそうです。介護をして行くコツは「完璧を求めない。肩の力を抜く」これがポイントだそうです。特養の入居も考えてはいるが暫くはなんとかやって行きたいそうです。

しいなの
つぶやき...

自宅介護では家族が様々な人たちと関わる事で「社会的孤立」の解消にも繋がります。お父様と息子様が静かに暮らしていた中で「介護職という他人」が家に入るのを躊躇されるケースも見受けられます。介護で困った事があれば最寄の「おとしより相談センター」やしいなへご連絡ください。

～ ケース2 ～

独居で暮らす70代の男性にお話を伺いました。20年近く前に脳梗塞となり後遺症の為、若干の麻痺が残ります。ご自宅は数段の階段があるため、住み慣れた地域内のバリアフリーの都営住宅や区営のけやき苑等に申し込みをされていますが中々当たりません。施設で暮らすより、自分のペースを大切にしたい自宅での暮らしを続けて行きたいそうです。デイケアでのリハビリや自宅でのシャワー浴、買物や調理なども取り入れながら15年以上介護サービスを利用しています。ケアマネジャーは、長年同じ方が担当しているので病状の変化などシッカリと把握してくれ「安心できる」と仰っていました。ただ、災害時は一人で歩いては避難所へ行けないのが一番の不安だそうです。



しいなの
つぶやき...

介護サービス事業者や地域の方とも連携し、災害時も孤立化を防いでいきたいと思えます。

☆ 健康福祉委員会 ☆

手話言語条例について → 全会一致で可決
聴覚障がいの方にとっては、手話はとても重要なものです。もっと沢山の方に手話や聴覚障がいに対する理解や啓発を進める。そして聴覚障がい者が地域で活動しやすい環境整備を促進する。その保全することを目的とした条例です。
健康福祉委員として、幼少の頃から保育園や幼稚園教育の中で歌などを通じて子ども達が手話を理解できるように取り組んでほしいと提言させて頂きました。



無所属 板橋区議会議員 **しいな ひろみ**
FAX: 03-3579-2734 TEL: 080-5187-7224
e-mail: hirorin@orion.ocn.ne.jp
<http://ameblo.jp/shina-hiromi>



板橋区民の幸せと生活を守るために、全力で活動します！！
ご意見、ご要望などありましたら、ご連絡ください。